「国際協力に関する有識者会議」080414@外務省

「NGOとして考える国際協力
-NGO・CSOの経験と視点から」

熊岡路矢

トンレサップ川をさかのぼる（古都ウドン山頂より）

小学校

お寺

村の乗合バス

診療所

お坊さん

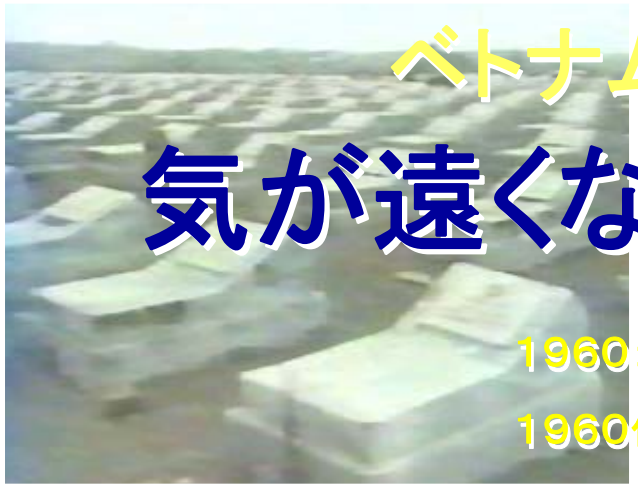
村の社会生活

モトドップ

人民党

ポルポト運河

自転車通学



ベトナム戦争とカンボジアの内戦

気が遠くなるほどの長い戦い！

1960：南ベトナム民族解放戦線結成

1960代前半：ポル・ポト、イエン・サリなど解放区へ

1965：対米断交

1970：ロン・ノル政権誕生

1975：ポル・ポト軍、プノンペン入城

＊戦争と非戦闘員（市民）の犠牲・被災

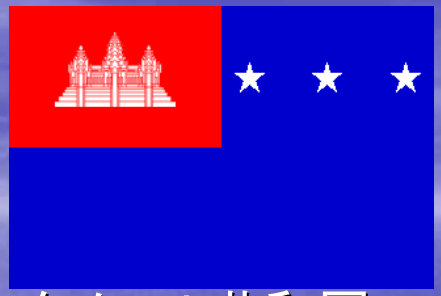
ベトナム戦争

写真（沢田教一氏） 1965年9月6日、クイニョン北方のロクチュアン村で、銃弾を避けながら川を渡る母子を撮影した写真『安全への逃避』（当時UPI）

（1936年2月22日 - 1970年10月28日歿） 1970年、カンボジアにて取材中、殉職。

2）歴史-独立後の4つの政権とその指導者たち

カンボジア王国
1953～1970年



クメール共和国
1970～1975年

民主カンプチア
1975～1979年

カンプチア人民
共和国
1979～1989年

ノロドム・シハヌーク

ロン・ノル

ポル・ポト

ヘン・サムリン

※カンプチア人民共和国は1989年4月、国名を「カンボジア国」に改称

ポルポト派による大量虐殺の悲劇

（推定死亡者170万人＝総人口の4分の1）

ほとんどの人が家族の誰かしらを失っている

１）紛争地域（戦争、内戦、独裁政権下）で働く旧インドシナ、エチオピア、ソマリア、南ア、ルワンダ、パレスチナ、旧ユーゴ、アフガニスタン、イラクなど

。

①全て固有・個別の原因。容易には一般化できない。

②カンボジアの事例：「『クメール・ルージュ』（KR）が悪い」という結論（KR裁判）。「外」から持ち込まれる不幸・被害。

③　戦争（もの、こころ、身体の破壊）－人権侵害－環境破壊－貧困化の相互・悪循環化。「和平協定」を越える真の復興

④地域の不安定化。

＊1979年　イラン、ホメイニ革命、（→イラン・イラン戦争）、旧ソ連によるアフガニスタン侵攻、ベトナムによるKR政権転覆。中国によるベトナム懲罰。

１）紛争地域（戦争、内戦、独裁政権下）で働く

問題意識

①NGOの比較優位。紛争-貧困問題への取組。
（擬似的）非政治性、国境（政治）の両側で働く。
緊急人道援助-復興協力-開発協力の一貫性。

「国益」「国家安全保障」「資源確保」ー硬直

１）紛争地域（戦争、内戦、独裁政権下）で働く

②「非政府」であることの意味。

可能な限りでの（擬似的）人道性-中立性-公正性-独立性-非営利性、「人間の安全保障」

緊急・深刻な状況では、相手の、自分の国籍も意識外にある。

１）紛争地域（戦争、内戦、独裁政権下）で働く

③復興・開発の段階で重要なもの

＊選挙実施（「民主化」）・市場経済導入

紛争後／脆弱国家　拙速に市場経済を導入すれば、多くの場合、「弱肉強食」＝”Winner Takes All”社会

援助利権、ビジネス利権の集中。極端な貧富格差。

A。下からのCBRM（コミュニティベースの資源管理）。

個人・小グループの相互扶助＝連帯社会経済によるエンパワー。　B。経済成長型モデルの追求だけでは貧困解決は遠のく。

＊「和平からの逆転」-1997年7月武力衝突

弱肉強食の社会。 土地の収奪と司法の不機能

自然資源の乱獲

環境と農民の生活の破壊

土地問題

タイの2．7%を上回る5%近い
発生率を見る深刻な事態

和平の成立によって市場経済が導入され、「HIV/AIDS問題」、「環境破壊」、「土地問題」そして「格差拡大」という新たな問題が生じた

格差の拡大と
競争の激化

１）紛争を克服する／復興・開発へ
カンボジア人自身による「自立・安心」の村づくりを

貯蓄から始める、女性相互扶助
グループ(小規模ビジネス)

生態系農業と篤農家（カンダール州オンスノール）

（旱魃下）環境に適合する野菜、豆類、果樹を育てる

サラヴァン・テコ寺院（プノンペン市内）1991年12月

カンボジア人権・開発協会（ADHOC）の発足

仏教・寺院・僧侶が扶ける、人権活動／NGO

「カンボジア：平和への道のりと教訓」

Maha Gosananda師

２）パレスチナ紛争、（イラク戦争）

①パレスチナ紛争

占領の問題、「隔離の壁」『不条理の相乗』

【１】難民の帰還、【２】エルサレムの地位、【３】入植の問題（西岸、エルサレムでは、むしろ拡大）

パレスチナ問題-イスラエル問題-米国問題

人道援助と和平への提言をつなげる

＊隔離の壁　西岸内を分断(右：パレスチナの村 2006年8月)

＊壁の向かう側（イスラエル入植地）

2）パレスチナ西岸での保健。医療活動

パレスチナ医療団体、イスラエル「人権医師団」、欧米NGOと

①パレスチナ　(ガザ)
破壊-隔離　　保健･栄養活動

2）保健･医療･栄養活動

I'm going to travel to Amman
I'm going to buy a car
prediction
IRC

2）イラク戦争　2003年3月20日～

2）イラク戦争：　医療支援／白血病・小児ガンの子ども支援

Haneen Amar
Kobayashi Ami

2）パレスチナ紛争、イラク戦争

①人道援助の実施-和平提言

2004年まで現地常駐。国境越しの援助に切替

②『イラク戦争』開戦前の時点で、政府、政府系援助機関が、『平和構築』『難民・人道支援』等の用語で、戦争そのものへの批判なく『復興協力』に流れてしまった。『イラクは壊れた』 解決？

③根本問題（一つ）がパレスチナ紛争とその解決。

３）世界のNGO概観、（日本のNGO概観）

＊米国　三つのグループ

①大型NGO　USAIDとの連携

②市民・民間財団の支援に依拠。独立性。

③一定の割合でのODAとの連携

＊欧州

①大型NGO　上限を設ける。（ODA連携）

②市民性

③NOVIB（OXFAMオランダ）　独自の方針（ODA）

３）（世界のNGO概観，）日本のNGO概観

①ディレクトリ上、300以上のNGO。
②小規模の団体が多い。
③（正）会員は、全体で約30万人。（重複もあり）
④市民社会からの支援をいかに確保するかが課題

＊市民、市民社会から支えられることが基本。
＊その意味で、NPO法、認定NPO法は、評価できる。
＊ODAとの連携。（NOVIBのようなあり方？）
　消化・吸収できる規模を超えて集中すると弊害。

4）その他。新たな情勢

＊新しい「援助国」の台頭

　　中国、ロシアなど。 資源獲得を目的とする、国策国益「援助」（「経済援助」および軍事援助。）人権配慮・環境配慮に乏しく、批判を浴びている。

＊巨大な民間財団。（国家なみの規模）

　ゲイツ財団、「オープン・ソサエティ」（ソロス氏）

＊援助協調、援助調整の課題

ご清聴有難うございました。

現在進行中の紛争の解決および、
紛争後の総合的な復興（社会経済の復興、和解、民主的統治）と社会発展）を祈ります。